

試験研究活動情勢報告（平成 30 年 12 月分）

【果樹試験場】

「土佐文旦」における野囲い貯蔵資材の検討



野囲いの様子

「土佐文旦」は通常、寒害を避けるため年内に収穫し、「野囲い」と呼ばれる方法で追熟した後、1月下旬頃より順次出荷されます。野囲いでは、貯蔵資材として稲わらが使用されますが、近年は稲わらの確保が困難になっているため、稲わらに代わる資材を検討しています。昨年度の調査から有望資材として選定したアルミプチ（アルミ蒸着気泡緩衝材）とPPムシロ（ポリプロピレン製）の貯蔵性を調査するために野囲いを設置しました。今年度は、茶業試験場にも設置し、極温が低い場所での果実品質や貯蔵障害を調査し、代替資材の耐用年数についても検討する予定です。